

住民自らの行動に結びつく  
水害・土砂災害ハザード・リスク情報共有プロジェクト

住民に切迫性(危機感)を伝えるために  
気象キャスター・気象予報士に  
何ができるか？

2018年11月8日

気象キャスターネットワーク  
副代表・事務局長 岩谷忠幸

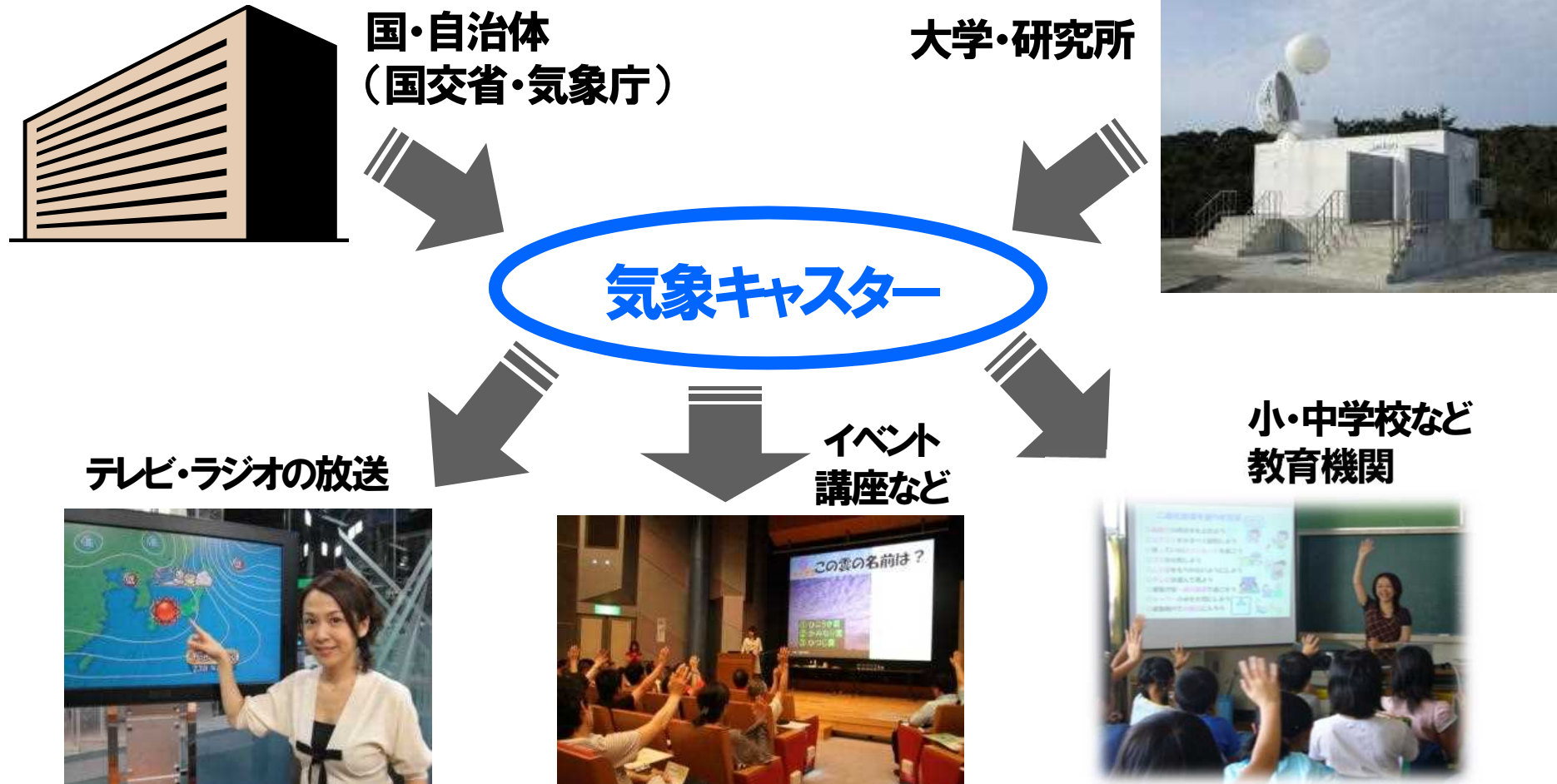
# NPO法人気象キャスターネットワーク



**会員数 285人** (2017年12月31日現在)

全国の気象キャスターが放送局の垣根を越えて有志で集まり、  
気象災害軽減や地球温暖化の緩和・適応策のために  
**知識普及啓発活動** を行っている非営利活動法人です。

# 気象キャスター・気象予報士の役割



気象キャスターは、難しい話をわかりやすく伝えるプロ(認知度や信頼度も高い)。  
専門家と市民の「橋渡し役」(サイエンス・コミュニケーター)

# 学校などでの普及啓発

全国の気象キャスターが協力し、累計4,500校以上の小中学校で出前授業を実施。そのほか、毎年200回以上、一般向け講演会や子供向け防災教室開催。子供たち自身が災害から命を守る「**知恵**」を身につけ、大人の避難行動を促す「**家庭の防災リーダー**」となっしてほしい。



【表彰】地球温暖化防止活動環境大臣賞、  
気象庁長官賞、東京都環境賞知事賞  
地球環境大賞（文部科学大臣賞）など



# 気象を体感で学ぶ普及啓発



情報活用とともに、  
体感も大切にしたい！



# 一般向け防災講演会

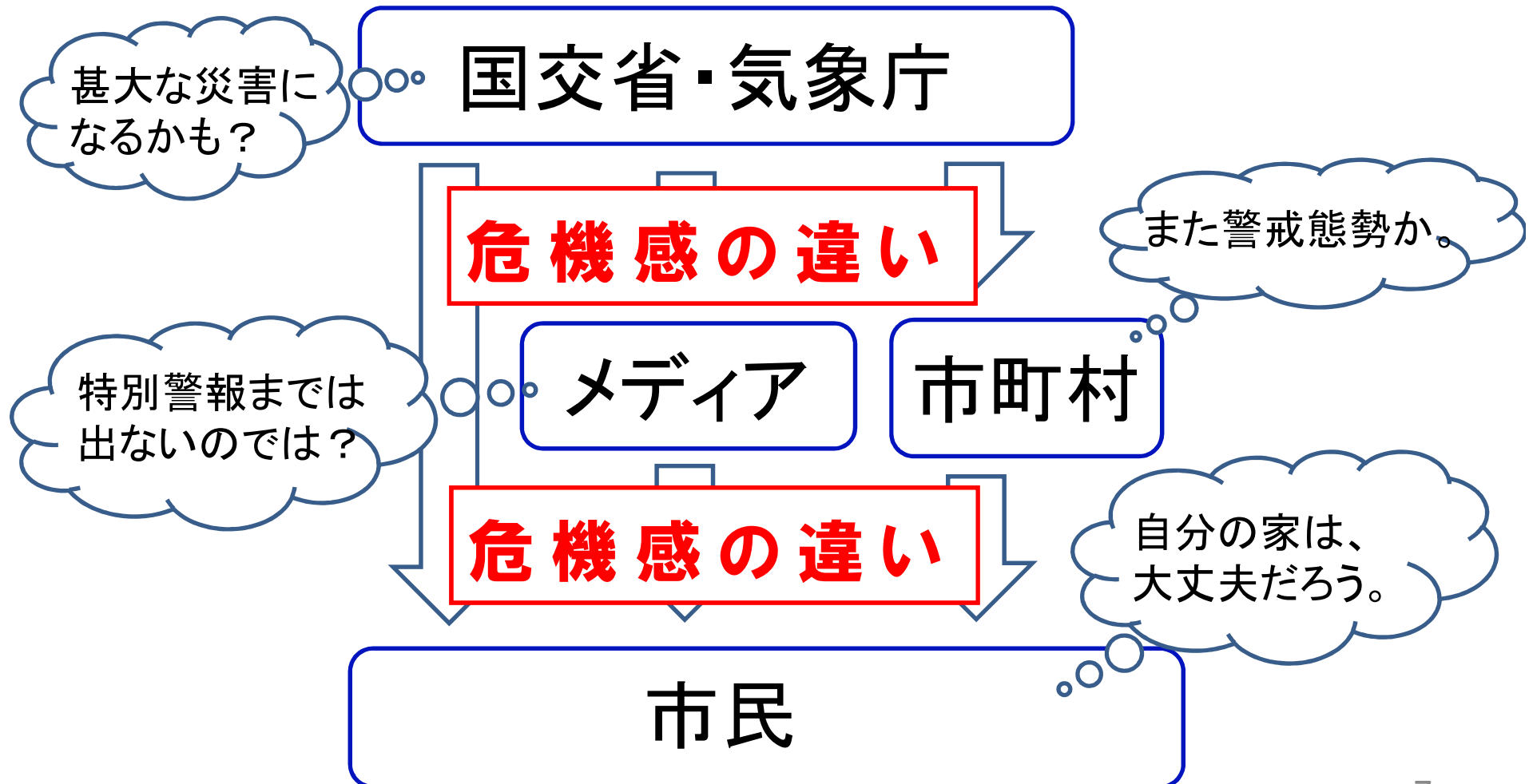


マイ・タイムライン作成など、  
防災を自ら考えるワークショップも

# 西日本豪雨の教訓（私見）

事前に予想されていた大雨

気象庁は異例の会見で「記録的な大雨のおそれ」と情報発表。



# 危機感(切迫性)の違いとは？(私見)

国交省・気象庁

(情報の発信側)

- ・予想雨量などデータを見て**感じる危機感**
- ・防災上、**安全側**に立った情報発信

メディア・市町村

(情報の伝達側)

- ・データだけでは**感じにくい危機感**
- ・頻繁に発表される防災情報への**慣れ**

市民

(情報の受け手側)

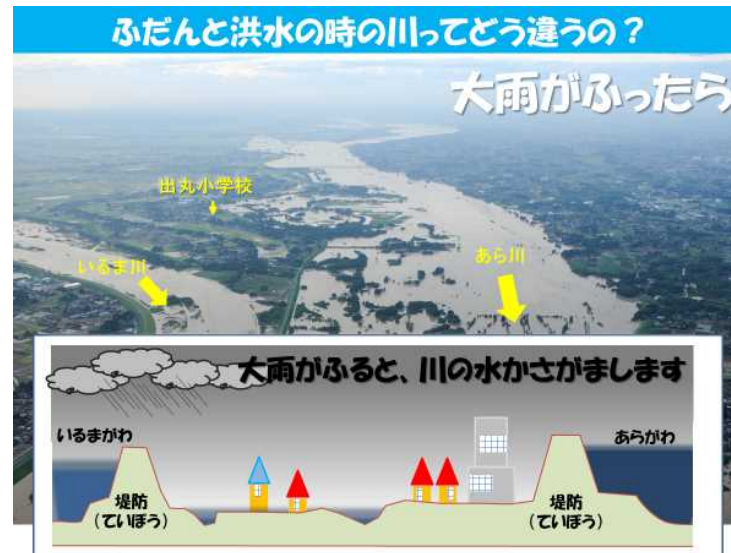
- ・災害をイメージできず、**感じない危機感**。
- ・自分は大丈夫と都合よく解釈し、  
危機感を“**自分ごと**”にできない。

避難行動へのトリガーが必要



# 過去の災害を知る

(例)川島町での防災教室(関東地方整備局)



これまで、川島町ではどんな洪水があったのかな？

今から70年前(昭和22年)のカスリーン台風

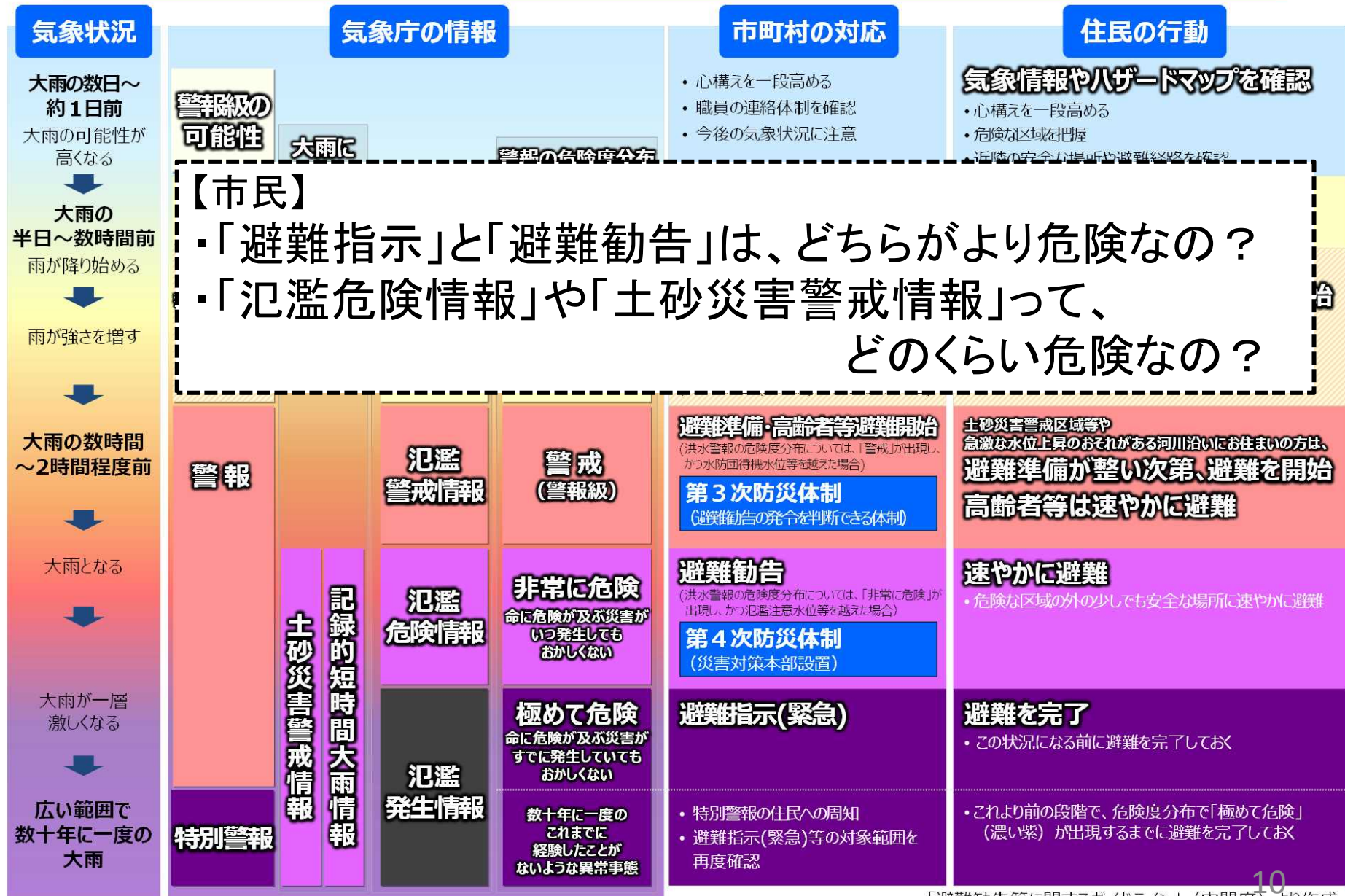


これまで、川島町ではどんな洪水があったのかな？

今から18年前(平成11年)の台風では



# 詳細な情報＝理解できない情報に！



# 気象報道における「正確さ」と「わかりやすさ」

正確さ

||

客観的

例) 降水確率50%

わかりやすさ

||

主観的

「傘をもって」

(正確な意味) → 「雨が降るのは五分五分の確率」

(気象庁予報) → 「くもり時々雨」

(気象キャスター) → 「雨が降りそうなので、傘をお持ちください」

避難行動を促すトリガーに？

# 危機感(切迫性)を伝えるために

## 1) 天気予報番組での水害情報の見方の周知

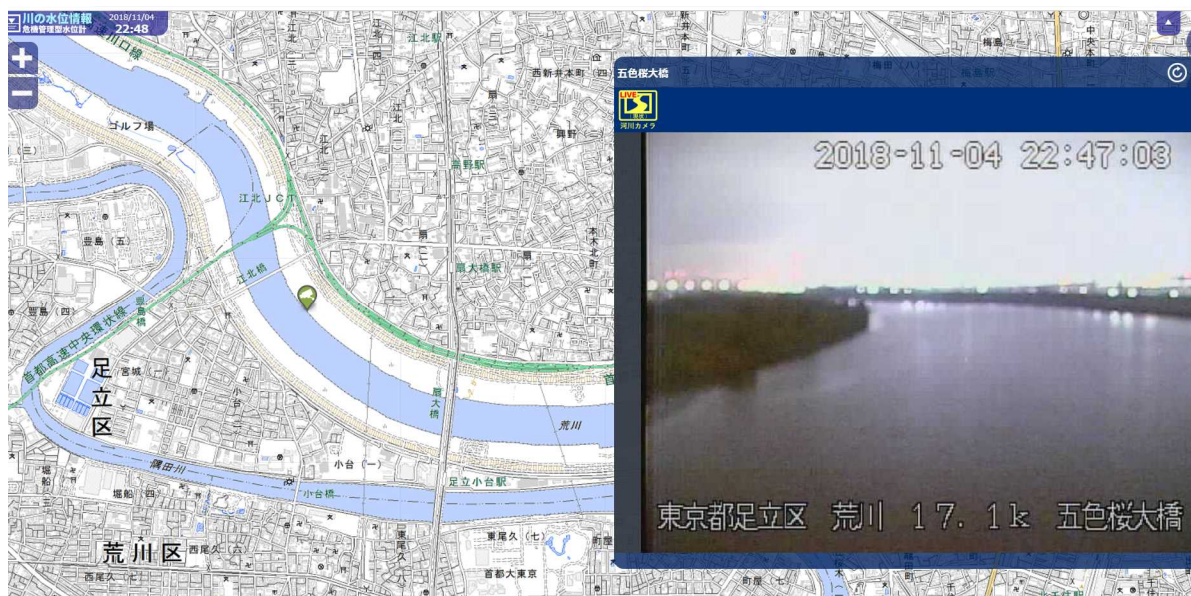
天気予報番組で、災害前に水害情報の見方など、防災上、役立つ情報を取り上げてもらいやすいよう、気象キャスターへ情報提供を行う。放送内容は放送局の判断になるが、防災上、役立つ情報の提供は国交省にも期待したい。



# 危機感(切迫性)を伝えるために

## 2) SNS等での防災情報発信及びリツイート

トリガーとなるべく、天気予報番組のほか、SNS等での情報発信、川の防災情報などの国交省公式ツイートの積極的なリツイート。



# 危機感(切迫性)を伝えるために

## 3)伝わりやすい水害・土砂災害情報の検討

専門用語が多く、一般市民に理解が難しい水害・土砂災害関連の用語を、わかりやすい表現にするため、定期的に国交省などと検討会(意見交換会)があってもよい。

## 4)防災講演会及び防災教室にサイトの紹介

気象キャスターネットワークが実施している講演会などで、国交省やYAHOOなどの防災情報サイトの紹介、携帯各社の緊急速報メール、LINEの防災時の活用などを紹介。

# 危機感(切迫性)を伝えるために

## 5)「あなたの街の防災コメント」(47都道府県で)〈案〉

全国の気象キャスター・気象予報士の協力を得て、災害発生が予想される時はもちろん、日頃から、県単位(将来的には市町村単位)のローカル向け、防災コメントの発信ができないか？

## 6)防災コラボチャンネル/コミュニティラジオなど臨時出演

ケーブルテレビやコミュニティFMなど、気象予報士による天気予報がないところへ、大きな災害発生が予想されたときに、スマホなどを活用して、臨時に出演する。